

平成31年度 授業改善推進プラン 高学年

	平成30年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国 語	<p>○話し手の意図を捉えて、聞き取ることや、立場や役割に応じて話すことはおおむねできている。</p> <p>○物語では登場人物の気持ちや様子を読み取ることができている。</p> <p>△漢字について、正しく読む力はついているが正しく書くことに課題がある。</p> <p>△資料と文章を対比させて考えることに課題がある。</p>	<p>○話し合いの学習では、相手や目的に応じた話し方を指導するとともに、相手の意図をとらえて話を聞くことを指導することで、発言内容と目的や意図を関連付けて考えることができるようにする。</p> <p>○叙述をもとに考えをまとめていく学習を引き続き取り入れる。</p> <p>△教科書を音読する機会を多く設け、漢字や言葉の読みに慣れさせたり、単元ごとに漢字の小テストを行い、定着を確認したりする。</p> <p>△説明的文章では、文章の要点だけではなく、資料と関連付けて読むことを意識させていく。</p>
社 会	<p>○都道府県と名称と位置について正しく理解している。</p> <p>△世界の主な国名と国旗、貿易相手国、日本周囲の大陸名や海洋名など、世界地図を基にした用語の理解に課題がある。</p> <p>△資料から必要な情報を読み取ったり、複数の資料を関連付けて解釈したりするなど、資料を活用することに課題がある。</p>	<p>○小テストを繰り返したことが知識の定着につながっているため、都道府県以外も継続的に定着状況を把握しながら確認テストを繰り返していく。</p> <p>△地図帳の内容を白地図に記したり、地球儀に触れたりする時間を多く取り入れ、具体的な操作を通して、実感を伴った知識が得られるようにする。</p> <p>△問題を解決するために必要な資料について考えさせ、資料を活用して調べる活動が充実するようにする。</p>
算 数	<p>○基本的な計算処理がおおむねできている。</p> <p>△分数と小数の表し方に課題がある。</p> <p>△活用能力が問われる問題の正答率が低い。数学的な思考力を伸ばして行くことが必要である。</p>	<p>○朝学習や普段の授業から、「確かめプリント」や「補充プリント」「ドリル」などを活用しながら反復練習を行い、基礎を定着させる。</p> <p>△小数や分数が表す大きさをイメージしやすくするために、具体物や数直線を用いて、表現させる。</p> <p>△「グループ交流」「全体交流」など、自分の考えを互いに発表し合う場を設定し、立式の根拠を明らかにする力を育てる。</p>
理 科	<p>○「魚のたんじょう」「人のたんじょう」など生物に関する単元についての問題は、他の単元に比べて正答率が高く、児童の興味・関心も高かった。</p> <p>△「物の体積と温度」「電気のはたらき」「流れる水のはたらき」の理解が十分ではない。</p> <p>△全体的に基礎的な知識の習得及び技能の活用が十分ではない。</p>	<p>○生物に対する興味・関心がもてるような場を意図的・計画的に設定していく。(体験・ICTなど)</p> <p>△理科授業の基本的な学習過程を「自然現象に触れる(自然現象について考える)→問題把握→予想→観察・実験→結果をまとめる→考察→結論→普段の生活へ生かす」とし、解決に繋げるようにする。</p> <p>△各単元で問題に対するから結論を各自でまとめる活動を取り入れ、基礎的な知識を確実に定着させる。また、できるだけ、一人一人に実験や観察の機会を与えられるよう教具を多く準備し、手に触れて実感をともなわせながら観察や実験の技能を高めていく。</p>

<p>体 育</p>	<p>○全体のねらいを意識し、学習活動を見通して児童が主体的に課題に取り組むことができる。 ○チーム練習の際に互いの教え合いにより、ボール操作の技能が向上した。 △器械運動の技能に関しては、互いに見合うことはできているものの、技のポイントを相手に伝えることや、自分で改善策を考えることには課題がある。</p>	<p>○学習カードを活用し、児童が主体的に運動に取り組み、さらに思考力が高まるようにする。 ○主運動につながる補助運動として、ボールを操作する時間を設ける。また、技能向上につながる練習方法を提示する。 △得意な児童からポイントを探したり、試技を撮影したものを見せたりすることで、自ら改善策を考えられるよう、グループの組み方や指導方法を工夫する。</p>
<p>音 楽</p>	<p>○音楽活動に多くの児童が意欲的に取り組むことができる。 ○音楽表現に興味をもっている児童が多い。 △曲想や音楽の構造と関わりについての理解が十分ではない。</p>	<p>○活動の中で音楽の良さや演奏する喜びに気付かせ、演奏に対する意欲・関心・態度をもたせる。 ○歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の各分野の活動をバランスよく行い、児童のもつ能力や可能性を引き出せるよう教材の工夫をする。 △曲想を生み出している音楽の構造に目を向けるよう、効果的な手立てを工夫する。</p>
<p>図 工</p>	<p>○造形活動に意欲的に取り組んだり、感じたことや想像したことから表したいことを見つけたりすることができる。 ○材料や用具について、前の学年までの経験や技能を生かし、表現に適した方法などを組み合わせる力が育まれてきた。 △鑑賞する活動を通して、良さや面白さを感じ、言葉に出して表すことに課題がある。</p>	<p>○児童が興味をもつような題材を吟味する。例えば、目新しい材料を提示する。また、自ら表したくなるようなテーマ設定を工夫し、自己表現することへの充実感や達成感を味わわせる。 ○そのときそのときの技能的なポイントを児童が理解しやすいように、ICT機器を使いながら解説し事例を提示する。また、机間巡視しながら個別に支援する。 △鑑賞活動において、感じたことや思ったことを友達と話し合ったり、表現の意図を発表したりする等、言語活動の時間をできるだけ確保する。日頃より言葉に出して伝え合う機会を充実させる。</p>
<p>家 庭</p>	<p>○協力して課題を解決しようとしている。 △家庭生活の中で、家族に関係することや住まい方に関係することについて経験値の個人差が大きい。</p>	<p>○友達同士で教え合う時間を設ける。協力して課題解決ができるような教材に取り組みさせる。 △学習過程を明示し、段階を追って習熟できるようにするとともに、繰り返し学習することで基礎技能を身に付けさせる。また、家庭と協力して家庭学習等で実践を繰り返させることで、学習の定着に繋がるようにする。</p>